

読書「月にゼロ冊」3割 スマホ影響、本離れ深刻

今回の表題は、神戸新聞 [H29. 6. 25 (日)] の記事のタイトルから引用しました。

1カ月に本を読む冊数が「0冊」の人が、3人に1人の割合に上がることが日本世論調査会の調査で分かったとしています。「スマートフォンやゲームなどに費やす時間が増えた」との回答が73%を占め、それらが、読書離れの大きな原因となっているようです。私たちが、スマートフォンに感じているデメリットをこの調査が裏付けた感じがします。

しかし、読書が自分にとって必要かどうかについて、「必要だ」(61%)、「どちらかが必要」(30%)で合計91%と、読書を大切だと考える人が多数を占めています。読書が大切だと考えていても、実際には、なかなか読書ができない現状があるように思われます。

そのような中、本校では、8:30~8:40 [10分間] を「朝読」に充てています。今朝、その時間帯を見て回りましたが、背筋をしゃんと伸ばして本を読んでいる姿が印象的でした。ほとんど全ての生徒が、文庫本を読んでいた。(雑誌や漫画はダメなので。)

朝読の効果は、読書習慣が身につくのは勿論のこと、朝、落ち着いた静かな気持ちで授業に臨めることです。登校後すぐに、または、部活の朝練の後すぐに、授業に入るより落ち着いて授業を受けることができます。

さて、本校の図書部では、定期的に「図書だより」を発行していますが、生徒昇降口辺りの廊下に話題の本の紹介を行っている「パネル」(右の写真)も掲示しています。

最近では、本の紹介をする場合、タイトルや著者名の一覧だけでなく、このパネルのように「表紙」や「背表紙」の写真を載せると、読者を惹きつけやすいですね。

活字は素晴らしい文化です。1冊でも多くの本を読んでほしいと思っています。

